

テーマ	『県立高等学校における課題予防的・未然防止教育相談に向けての取組』
------------	--

1 達成に向けた手立て

それぞれが未然防止に向けた取組みを考え、実践する。
 例) ① 生徒のセルフケア力を高める支援を行う
 ② 校内の連携強化（リアルタイムに必要な人員で校内ケース会議を行い、方向性を統一する）
 ③ S S Wの認知度アップ

2 取組の成果と課題

成 果	課 題
<p>① セルフケアを高める支援として、感情ワークシートや満足度チェックなどのツールを使い、見える化を行った。その結果、面談でワークシートの内容を深掘したり、継続して話を進めたりすることで、生徒自身が自分の変化を実感することができた。さらに、少しずつではあるが生徒が言語化できるようになった。</p> <p>② 校内研修を行った。研修を行うことでS O Sのキャッチ力が高まったり、課題認識力（例えば、生徒には生徒の課題がある、ソーシャルワーク的視点で課題の背景に視点を向ける）が高まったりした。生徒をとらえる視点が、「困る生徒」から「様々な背景がある生徒」と変わった。問題行動だけに着目するのではなく、背景にある課題を解消するための社会資源はないかと考えられるようになった。</p> <p>③ S S W便りを拠点校・巡回校・エリア校に配布することで、S S W認知度アップにつながった。</p>	<p>① 全県の高等学校がS S Wを介さずに、よりリアルタイムにS S W便りを取得できるようにしたい。</p> <p>② 時間が足りない。研修開催の時期が夏休み以降になることが多く、研修で気付いたことをもとにした取組みの時間が足りない。</p> <p>③ 巡回校では1年でいなくなる存在として、教員にソーシャルワーク的視点を知ってもらい、理解してもらい、取り組んでもらうことが必要であるが、限られた時間の中で行うことが難しい。</p> <p>④ 学校規模や管理職の考え方、地域資源などによって、支援の幅や深さが異なる（例えば、地域資源への生徒への同行などの校外活動をどこまで教員が行うか）。</p>

3 次年度に向けて

○各学校における課題をテーマとした研修を行う。